

<p>事業実施の目的</p>	<p>本県の小学校には、様々な施設類型から入学しており、幼保小接続の現状は、研究が終了すると継続しない、年度途中でカリキュラムを見直しにくいといった課題が見られる。このことから、施設類型の違いを越えた持続的・発展的な幼保小接続を通して、保育・教育の質の向上を目指す。</p>
----------------	---

<p>事業内容・成果 (R4年度)</p>	<p>1. 主な取組内容について</p> <p>【架け橋期のカリキュラム開発会議】</p> <p>架け橋アドバイザー、協力校園管理職・担当者、コーディネーター、市学校教育課・幼児課担当者、県教育委員会・子ども・青少年局担当で構成された「カリキュラム開発会議」を年3回実施し、滋賀県が開発した「架け橋期のカリキュラム枠」（※下記参照）を活用し、校区の実態に応じたカリキュラムを作成。</p> <p>【架け橋期のカリキュラム】</p> <p>本県のカリキュラムの課題を分析し、滋賀県版「架け橋期のカリキュラム枠」を開発。本カリキュラムの特徴は、園と小学校が協働で作成する「共通シート」と「実践記録」から構成されている。園と小学校がそれぞれの思いや願いを交流し、「共通シート」で視点を共有した上で、実践後の10の姿が見られた子供の姿を「実践記録」で描き出す。振り返り枠やコメント枠を設けることで、AARサイクル（見通し、行動、振り返り）で実践を振り返ったりカリキュラムを見直したりできるよう配慮。</p> <p>【園・小学校における体制】</p> <p>保育・授業を参観し、互いの保育・教育の理解を深めた。そのうえで、期待する子供像を設定し、10の姿の中の自立心と思考力の芽生えを意識し、取組を推進。</p> <p>【自治体における体制】</p> <p>公立幼稚園長経験1名、小学校教諭経験1名がペアになり取組を支援。また、県独自の幼保小接続事業と兼ねることで、小学校に加配教員を配置し、関係小学校および幼児教育施設の保育・授業に参画することで、校種間の連携・接続を促進。</p> <p>2. 主な成果について</p> <p>校園が持ち寄った「実践記録」は「何をしていたか」という活動内容ではなく、「どのようだったか」という子供の姿を描き出すことを意識。そのことが、自園・自校の保育・授業を問い直すことにつながっている。本事業の成果を「学びをつなぐ幼保小架け橋ガイドブック『架け橋期のカリキュラムを作成しよう！』』としてとりまとめ、県内へ普及・啓発。</p>
---------------------------	--

<p>事業実施地域・協力園校 (R4年度)</p>	<p>【実施地域】彦根市</p> <p>【協力園校】幼：公立幼稚園1、公立保育園1、私立保育園1、私立こども園1</p> <p>小：公立小学校1</p>
-------------------------------	--

<p>今後の目標 (R5年度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度に作成した「架け橋期のカリキュラム」の検証を行い、保育・授業改善を推進。 ・子供の学びの姿や変容、および先生の意識の変化について映像や画像で記録し、映像資料として県内へ発信。
-------------------------	--

思考力の芽生え

0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳
見たり、 聞いたり、 触ったり、 口に入れたり		これ、何？自分で試そう			この方法は？友だちと試そう		
人やものの存在を音、形、色、手触りて確かめる。		何度も試すことで、形、色、大きさ、量などの物の性質や仕組みに気付く。			身近にあるものや用具などを使って試したり、考えたり、作ったりする。 友だちと対話をしながら考える。 自分と異なる考えがあることに気付く。	これまでの経験が使えないかな？ 見付ける、比べる、例える、試す、見通す、工夫するなど多様な活動を通して考えを深めようとする。	

思考力の芽生えは、周囲の環境に好奇心をもって積極的に関わりながら、新たな発見をしたり、もっと面白くなる方法を考えたりする中で育まれていきます。

- 滋賀県版「架け橋期カリキュラム」共通シート
- 滋賀県版「架け橋期カリキュラム」実践記録
- 0歳～7歳までの10の姿における発達や学びのプロセス

例

【滋賀県提供資料を活用して幼保小が協働で作成】

滋賀県版「架け橋期カリキュラム」共通シート 【城東小学校区】校園名 ()

		5歳児			第1学年		
時期		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像		心が動く、心をほぐす ～答えがないことでも、自ら考え、しなやかな心をもち、失敗を恐れず行動する～					
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	自立心	やってみてできたことや、うまくできなくて困った経験を通して、もっとこうしたいという思いが強くなっていく。	考えたり工夫したり、失敗したりを繰り返しながら、自分なりに最後までやってみようとする。	できた満足感や達成感から更に積極的に自分の考えを出し、自信をもって諦めずに取り組むことができるようになる。	自分でできそうなことを見つけてためしたり、やり直したりしながら、新しい生活に慣れる。	経験したことをもとに見通しをもち、手ごたえを感じながら、できることを積み上げていく。	経験に基づいた見通しをたてて取り組み、達成感、満足感を味わい、自信を深める。
	思考力の芽生え	自分と友だちの思いや考えの違いに気付きながら色々な遊びや活動を楽しむ。	お互いの思いや考えを伝えたり聞いたりしながら、もっと楽しくしようと工夫するようになる。	グループやクラスで色々な考えを出し合い違いを受け入れて新しい考えを生み出そうとする。	新しい生活や環境に慣れ、小学校の学習や活動に興味をもつ。	お互いの考えの違いに気づいたり、よさを感じたりして、ともに学ぶことを楽しむ。	ひとりで考えたり、友だちと考え合ったりして、物事を解決する面白さを味わい続ける。
大切にしたいこと	環境単元	子どもが手に取り、自らやってみてみたい、もっとこうしたいと思えるような場の工夫	自分で見て触れて感動できる豊かな体験の積み重ね	友だち同士の関わり(異年齢交流を含む)が活性化する場づくり	期待感いっぱいの学びの環境	広がる つながる 学びの環境	経験・既習したことを試しながら深まる自信・意欲
	先生の関わり	好きな遊びに夢中になれる時間や場を充実させるような関わり	共感的な受け止めと関わり	個の思いを認め、つなげる	入学までの体験を把握し、触れなくなる、すぐ試したくなる材料・用具の配置	広がりつながりを生む 材料・用具の配置と教師の声掛け	グループやクラスで色々な考えを出し合い違いを受け入れて新しい考えを生み出す関わり
	キーワード	やってみてみたい、もっとやりたい	様々な経験の積み重ね	友だちとつながる、深まる	知ってる! やりたい!	もっと もっと やりたい!	できたよ! もっとできるよ!
主な教育課程・予想される活動	各園・小学校において記入						
振り返り	各園・小学校において記入						